

査読付き学術雑誌の 掲載を勝ち取る

加登豊 同志社大学大学院ビジネス研究科教授 神戸大学名誉教授

松尾貴巳 神戸大学大学院経営学研究科教授

安酸建二 近畿大学経営学部教授

岡田幸彦 筑波大学大学院システム情報工学研究科教授

船越多枝 大阪経済大学経営学部准教授

喜田昌樹 滋賀大学経済学部 教授



2024年6月15日 福岡大学

本セミナー開催の目的

1. 査読付き学術雑誌に研究業績を掲載することの意味を理解する

- ① 研究の進展に貢献する
- ② 学会活動をさらに活性化する
- ③ 研究者としてのキャリア形成につながる
- ④ 社会人教員への道を拓く
- ⑤ 社会人の研究成果が学術研究に新たな刺激を与える
- ⑥ 産学連携の一層の促進に貢献する

2. 査読付き学術雑誌への研究業績の掲載数を飛躍的に向上させる

3. これらの目的を達成するために必要な知識やノウハウを習得する

- ① 査読付き学術雑誌に研究成果を掲載するために理解しておくべきこと
- ② 採択率を高める方法
- ③ 研究の生産性を高める方法
- ④ 査読コメントへの対応方法
- ⑤ その他関連事項

本セミナーの進め方: 多様な教授法を通じての多面的学習

1. 講義(知識の習得): 今回は時間の関係で実習はスキップするが、どのような実習をするかの概要は説明する。

実習

- ① 参考文献リストの作成方法
- ② 引用方法
- ③ 図表の表記
- ④ 英文サマリーの作成方法(翻訳ソフトを利用する)
- ⑤ 査読レポートへの対応方法
- ⑥ 研究テーマの選定
- ⑦ 研究方法の選択とトライアングレーション
- ⑧ 査読者としての査読レポートの作成(別セミナーとして実施予定)

ケーススタディ

(査読プロセスの実際、査読レポートを作成する、査読レポートへの回答を作成する)

受講者間のグループ討議

本セミナーで例示的に取り上げる学術雑誌

『原価計算研究』 日本原価計算研究学会機関誌

『管理会計学』 日本管理会計学会機関誌

『メルコ管理会計研究』 牧誠財団機関誌

『会計プロGRESS』 日本会計研究学会機関誌

『経営会計レビュー』 日本原価計算研究学会機関誌

➤但し、他の査読雑誌(特に、経営学関連)にも有用な内容を含む研修として設計されている

査読制度に関する『メルコ管理会計研究』の記事

- 小沢貴史・立本博文・挽文子・加登豊・松尾貴巳・安酸建二・岡田幸彦・船越多枝. 2024「実態調査研究：査読付き学術誌の査読制度に関する座談会」『メルコ管理会計研究』15(1) 69-80.
- 伊藤嘉博，尾畑裕，片岡洋人，加登豊，篠田朝也，丸太起大，吉田栄介，澤邊紀生. 2023. 「『メルコ管理会計研究』(MJMAR)が果たすべきミッションと査読のありかた」『メルコ管理会計研究』14(2) 45-54.
- 伊藤嘉博，尾畑裕，片岡洋人，加登豊，篠田朝也，丸太起大，吉田栄介，澤邊紀生. 2021. 「座談会：「査読制度の意義とあるべき姿：先達の経験から考える」」『メルコ管理会計研究』13(1) 81-94.

(参考：研究倫理に関するオンライン会合を2024年3月5日（火）10:00-12:00で実施済み。会合記事原稿は、現在作成中。)

査読制度と学術雑誌：査読制度小史

➤ 査読制度の歴史

- ✓ *Philosophical Transactions*誌(1665年創刊)の編集長Oldenburgが同誌に掲載する記事を選抜するために採用したプロセス (Peer reviewなし)
- ✓ 現代の査読制度が登場する以前、研究者たちは科学的な審査を受けずに研究成果を発表していた(個人的・主観的な判断で良し悪しが決められていた、一部の研究領域では、現在でも査読は行われていない)
- ✓ 粗悪な論文が公刊されないように査読制度を活用するという考え方が生まれてきたのは19世紀末(Csiszar 2016, 307-308)
- ✓ Peer reviewが定着するのは、1970年代

査読制度とは： 次のスライド参照

査読制度と学術雑誌: 査読の目的

■ 査読とは

「同業者(peer)が審査(review)することであり, 研究論文の学術誌への掲載や研究助成金の採択, 科学者の採用や昇進, 大学・研究機関の評価など, 科学研究に関わるあらゆる場面で評価の中核になるものです。

そのような場面ですぐれた判断を行うことができるのは科学者だけであり, 科学研究に関わるあらゆる意思決定を科学者コミュニティの手で行っていくことが重要だという認識に基づくもの」

(日本学術振興会編集委員会 2015, 96)

→ 政治的圧力やプロパガンダから、研究を守る。

■ 査読評価基準

『管理会計学』

- ✓ 独創性
- ✓ 貢献性
- ✓ 形式的適切性

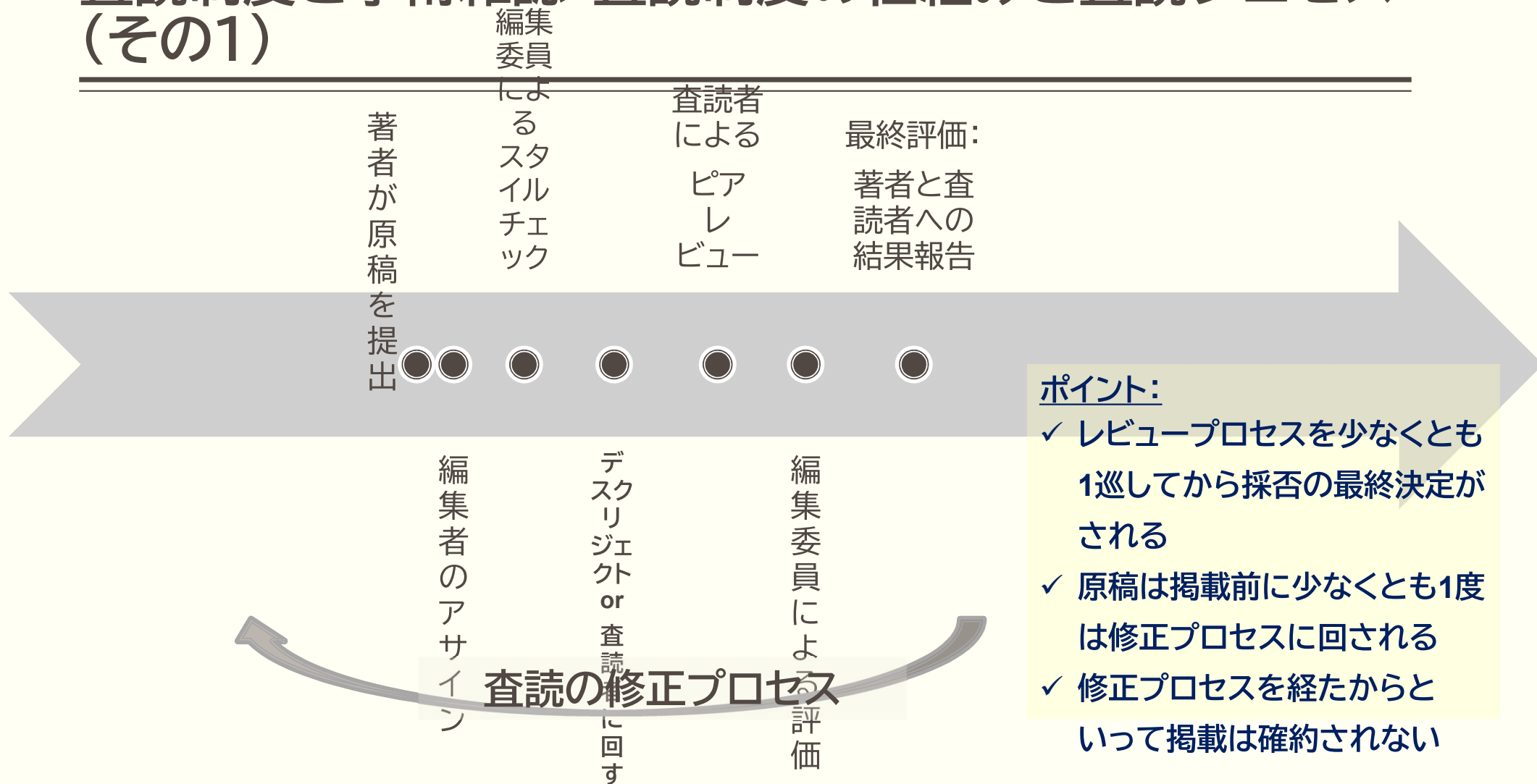
『経営会計レビュー』

- ✓ **実務貢献度**
- ✓ 新規性
- ✓ 独創性
- ✓ 構成・読み易さ

- 『原価計算研究』『管理会計学』『経営会計レビュー』『メルコ管理会計学』のいずれにも「査読」の定義はない。
- 「管理会計」「原価計算」の定義もない

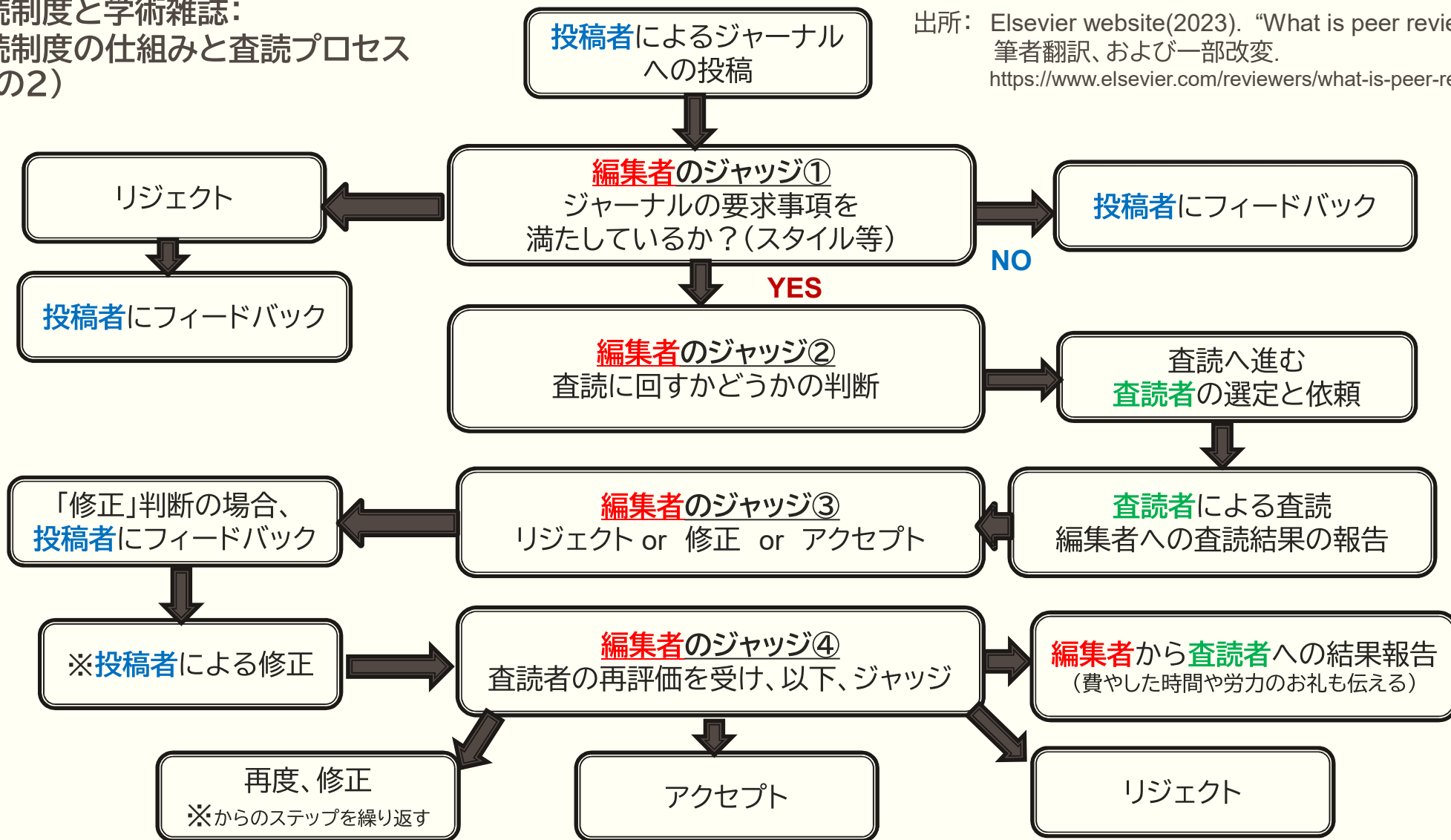


査読制度と学術雑誌: 査読制度の仕組みと査読プロセス (その1)



査読制度と学術雑誌： 査読制度の仕組みと査読プロセス (その2)

出所: Elsevier website(2023). “What is peer review?”.
筆者翻訳、および一部改変.
<https://www.elsevier.com/reviewers/what-is-peer-review>



「査読ゲーム」に参加するプレーヤーたち

- 投稿者(あなた): 研究成果の査読付き学術雑誌への掲載を目指す者
- 編集委員会・編集者:
 - ✓ 査読者の選任を行うとともに、投稿された論文の採択・非採択を決定する者
- 査読者:
 - ✓ 投稿者の論文の評価を行う者

➡ 投稿者は「査読レポート」(査読結果報告書)に対する論文の修正等を通じて自分の論文の価値(掲載に値する)を主張し、査読者からポジティブな評価を勝ち取ることを目指す。

査読のプロセス(第1ラウンド)

1. 論文著者【投稿者】が学術誌に論文を投稿する
2. 学術誌の編集者・編集委員会(以下, 編集者等)【編集者】が投稿論文を検討し, 査読するかどうかを決める(形式的不備、雑誌対象外論文等については、査読せずに不受理とする)
3. 【編集者】は投稿論文を査読するのにふさわしい当該分野の科学者【査読者】(通常2名以上、1名の学会もある) に査読を依頼する
4. 【査読者】は投稿論文を検討し, 査読結果報告書を作成し編集者等【編集者】に提出する
5. 【査読者】からの査読結果報告書を受け, 編集者等【編集者】は論文の掲載(アクセプト)・却下(リジェクト)等を決める。多くの場合は, 条件をつけ, 修正を求める(適切な対応を行ったと判断されたら採択)
6. 編集者等【編集者】は【投稿者】に審査結果を報告する

(日本学術振興会編集委員会(2015, 96-97))

査読のプロセス(第2ラウンド)

1. 【投稿者】編集委員会の指示を参考に論文を修正し再投稿する。【査読者】は修正論文を検討し、査読結果報告書を作成し編集者等【編集者】に提出する
 2. 【査読者】からの査読結果報告書を受け、編集者等【編集者】は論文の掲載(アクセプト)・却下(リジェクト)等を決める。必要に応じ、【査読者】を追加し、査読を継続する。
 3. 最終的に結論が出るまで、査読プロセスは継続する。
 4. 編集者等【編集者】は【投稿者】【査読者】に最終審査結果(採択、非採択)を報告する
- (日本学術振興会編集委員会(2015, 96-97))

ここまでの説明についての質問はありますか

- このあとは、投稿前に準備しておくことについて説明します。

投稿前の準備：論文草稿に磨きをかける

1. 投稿する論文を執筆する

2. さまざまな準備を通じて論文草稿に磨きをかける

- ✓ ① 同僚・後輩・先輩との議論と意見交換(同領域、他領域)
- ✓ ② 研究会等での報告と助言の獲得
- ✓ ③ ワーキングペーパーの作成
- ✓ ④ 学会(部会・全国大会)での報告

3. 研究発表の場と投稿先雑誌を決める

《その他のポイント》

- ✓ 競争的資金(例:科研費、牧誠財団研究助成など)の獲得
- ✓ 論文のオーサiership:単著か共同論文か
- ✓ researchmapへの研究成果の登録

論文草稿に磨きをかける：

① 草稿をもとにした議論と意見交換

- 同僚・後輩・先輩との議論と意見交換（同領域、他領域）
 - ✓ 他者の意見やコメントが論文の質向上に貢献する
 - ✓ 自分にはない視点からの指摘が参考になる
 - ✓ 多様な研究者との議論は、将来の共同研究の可能性を広げる
- ✓ 議論と意見交換の場を持たない人はどうすればよいか
 - ✓ 場を求める（どのようにすればいいか？）

論文草稿に磨きをかける：

② 研究会等での報告と助言の獲得

➤ 研究会等での報告と助言の獲得

- 研究会への積極的な参加

- ✓ 出身校、研究領域やテーマ、研究方法等の研究会等
- ✓ 自ら研究報告を行うとともに、他の研究者の研究報告を聞く
- ✓ 質疑応答が、自身の研究への示唆となる
- ✓ 他の参加者の意見やコメントも有用である

【ポイント】

- ☞ 関心のあるテーマの時だけではなく、継続的な参加が望ましい
- ☞ 自身に有用だと思われる2, 3の研究会を厳選し参加するとよい

論文草稿に磨きをかける：

③ ワーキングペーパーの作成

➤ ワーキングペーパー(WP)の作成

- ✓ ある程度研究が進めば、論文草稿としてWPを完成させる
 - ☞ WPを発行している大学等研究機関を調べる
 - ☞ 投稿予定の雑誌の執筆要領にしたがった書式で作成する
 - ☞ 学術雑誌の字数制限を意識すること
(将来の投稿に備えての準備作業)
- ✓ 研究会開催日に先立ってWPを配布→読了してきてもらい、質疑応答
 - ☞ 原稿の修正についての建設的な意見を得ることができる
- ✓ WPは未刊行原稿
 - ☞ 投稿に先立ってWPを作成しても、投稿制限(未刊行論文のみが掲載可能)に抵触しない
- ✓ なお、学術雑誌の字数制限にこだわることなく、論文で伝えたいメッセージを含んだ長文のワーキングペーパーを書くことも場合によっては有用。

論文草稿に磨きをかける：

④ 学会での発表（1）

➤ 日本会計研究学会：

- ✓ 管理会計以外の会計研究者からのコメントを得ることができる。
- ✓ 特に、研究方法論(モデル分析、統計的実証分析、パネルデータ分析、テキストマイニング等)についての質問やコメントは、論文の質向上につながる

➤ 日本原価計算研究学会・日本管理会計学会：

- ✓ 普段はあまり接触のない研究者からの質問やコメントを得ることができる
- ✓ 『原価計算研究』に投稿する場合、報告が条件
(直近の全国大会、全国大会直前の部会、その他当学会が主催ないし共催する研究会)

論文草稿に磨きをかける：

④ 学会での発表

➤ 学際的学会、他の研究領域の学会、国際学会：

- ✓ 研究領域ごとに特徴があり、多くの刺激を得ることができる
 - ✓ 組織学会、日本品質管理学会など
- ✓ 海外での研究報告は英文論文投稿の準備作業(海外の査読付き学術雑誌への投稿については、別途セミナーの開催を予定している)

☞ 学会報告にあたっては、フルペーパーの提出が条件となっている場合が多い。

☞ 投稿予定先の執筆要領に従って作成し、学会事務局等に提出する

受講者間のグループ討議

- ここまでのセミナーの内容について、意見交換を行う
- どこがわかりにくかったか、追加説明をしてほしいところをリストアップする

研究発表の場と投稿先雑誌を決める

➤ 主な学会

- ✓ 日本原価計算研究学会
- ✓ 日本管理会計学会
- ✓ 日本会計研究学会
- ✓ 会計関連の国際学会
(AAA, EAA, AAAJ, NZMAC, APMAAなど)
- ✓ 他分野の学会(国内(部会・全国大会)
- ✓ 海外(部会・全国大会)

➤ 投稿先雑誌を想定し、研究報告を行う学会を選択する

- ✓ 『会計プロGRESS』(日本会計研究学会)
- ✓ 『管理会計学』(日本管理会計学会)
- ✓ 『原価計算研究』『経営会計レビュー』
(日本原価計算研究学会)
- ✓ 『メルコ管理会計研究』
(牧誠財団の刊行物)

☞ 国際学会での報告は、英文の査読付き学術雑誌への投稿の登竜門である

投稿前の準備: 競争的資金の獲得

➤ 競争的資金(例: 科研費、牧誠財団研究助成など)の獲得

✓ 科研費の獲得:

➤ 所属大学の運営費交付金や私学助成金に繋がり、研究環境の良化をもたらす

✓ 牧誠財団の研究助成

✓ 競争的資金への応募:

➤ 研究計画の樹立につながる

➤ 競争的資金の獲得は、行おうとする研究に対するポジティブな評価である

➤ 例示: 牧誠財団への応募資料

➤ 競争的資金の獲得は、研究活動へのコミットメントを高める

➤ コンスタントな研究成果の蓄積につながる

Researchmapへの研究成果の登録

- ✓ 競争的資金獲得のための必須条件である
- ✓ 多くの人に研究成果を公開することになり、研究への積極的な取り組みを促進する
- ✓ 研究成果数が増加すれば、さらに研究への取り組みが促進される
- ✓ 所属大学の運営費交付金や私学助成金の増加につながる

論文のオーサーシップ: 単著か共同論文か

- ✓ ひとりで書き上げるか、みんなで書くか
- ✓ 単著のメリットとデメリット
- ✓ 共著のメリットとデメリット(スポークからハブに)

単著論文のメリットとデメリット

➤ メリット

- ひとりですべてを行う能力がつく
(査読制度もなく、また、単著論文のみが評価された時代もあった)
- 査読対応を一人で行うことで、研究能力が高まる
- 将来の書籍出版の可能性を高める(日本では、本が大切)
- 論文ではなく、本で生きていくという選択肢もあるが、そのようになるには、まずは研究論文の蓄積が不可欠(欧米では、教科書に対しても査読が行われていることはあまり知られていない)

➤ デメリット

- 生産性が低い (publish or perish)
- 孤独
- 誤った選択や行動に気が付かない

共著論文のメリットとデメリット

➤ メリット

- ✓ 視野が広がる
- ✓ 多数の研究者との共同研究が可能となる
- ✓ 多様な研究テーマに触れられる
- ✓ 多様な研究方法論に精通できる
- ✓ 掲載論文数が増加する

✓ 共同研究を行うときにChips

- ✓ ハブ研究者(例::Anne Wo 国立政治大学、台湾)
- ✓ トップジャーナルに多数の掲載論文を持つ者
- ✓ 英語が上手なこと
- ✓ 人間性？

➤ デメリット

- ✓ 根無し草研究者(器用貧乏)になる危険性がある
- ✓ 共同研究者選択の失敗は致命的

➤ 共同研究者のタイプ

- ✓ 指導教員との共同論文
- ✓ 研究仲間との共同論文
- ✓ 後輩や若手との共同論文
- ✓ 社会人との共同論文

だれと共著論文を書くか：

① 指導教員

- 指導教員モードと共著者モードは異なる
- 論文指導を受けていた時の関係は「師弟」
- 共同論文を書くときは対等（もう「先生」ではない）
- ふたり（あるいは複数）ですべてを一緒に書くのではなく、「役割分担」（分業）をすることが大切
 - 研究テーマの選定
 - 文献リスト作成と文献レビュー
 - 分析
 - 執筆

だれと共著論文を書くか：

② 研究仲間

- とともに成長する
- 役割分担を明確にしておく
 - 担当箇所
 - 研究分野
 - 得意な研究方法
 - 研究仲間との共同研究では、ハブースポークの関係ではない
- 頼りすぎると仲間ではなくなる
- フリーライダーは、そのうちに排除される
- 議論は大切だが、議論だけに終始していると論文は完成しない

だれと共著論文を書くか：

③ 後輩や若手

- 研究には、先輩も後輩もない。一緒に取り組むときには、共同研究者であり対等。
- 若手が中堅やシニアを育てることもある。
- 年下とも年上とも一緒にやってみる。

だれと共著論文を書くか：

③ 異なる分野の研究者

- 管理会計には隣接領域が多いので、異なる分野の研究者との共同研究の可能性は極めて高い
- ただ、学際的研究は査読付き学術雑誌にはなかなか掲載されない

だれと共著論文を書くか：

④ 社会人

➤ 社会人学生との共同研究

- ✓ MBA（経営系専門職大学院）でゼミ指導を担当する場合
 - 専門職学位論文（又はそれに準ずる論文）をベースとした共同論文で、研究対象分野の幅を広げることができる
 - 投稿を念頭において研究指導を行う
- ✓ 研究指導を通じた自分自身の研究能力の向上
- ✓ 経営実践の高度化に資する研究が可能
- ✓ 産学連携活動の質向上に貢献可能
- ✓ 産業界との距離を縮めることが可能
- ✓ 『経営会計レビュー』を掲載ターゲットとした論文作成もできる

掲載を勝ち取る知恵としての共同研究 その①

➤ 同時並行で複数の研究に従事すること

- ✓ 査読には時間がかかる
- ✓ 長期(数年)の査読者とのやりとりの結果、残念ながら不受理となることもある
- ✓ コンスタントに研究成果を上げる(査読付き学術雑誌への掲載)には、同時並行的に複数の研究に従事しておくことが肝要

掲載を勝ち取る知恵としての共同研究 その②

- ハブ研究者(高評価雑誌への多数の掲載実績を持つ中心人物)との共同研究
 - ✓ ハブとの共同研究(スポークとして)は、掲載確率を高める
 - ✓ 論文が多くてもスポーク研究者との共同研究では、掲載確率は上がらない
 - ✓ スポーク経験を積むことで、ハブに成長することができる
 - ✓ ハブ研究者になれば、多くのスポーク研究者と研究を実施することになる。その結果、論文掲載数が飛躍的に上がる

- 数多くの共著者候補との濃密なネットワークの形成
 - ✓ 同年代だけではなく、若手やシニアも重要
 - ✓ 特に、若手との共同研究は極めて重要である

共同研究について、なにか質問や疑問はありませんか

デスク・リジェクト(即時不受理)を回避する(1)

- 雑誌の対象領域の研究内容であること
 - ✓掲載対象外と判断された論文は、即時不受理となる
- 書式を厳守する
 - ✓指定された書式に従っていないと、即時不受理となることもある
- 投稿規定を熟読し、規定を遵守する
 - ✓投稿にあたってのルールに沿っていないと、即時不受理となる
 - ✓字数制限
 - ✓著者がだれかわかる記述(ダブルブラインドの査読の場合)

【実習①】投稿する論文の基本情報をとりまとめる

- 参加者を雑誌ごとの6つのグループに分ける
- その後、実習①に取り組んでもらう
- いま手元に査読付き学術雑誌に投稿しようとしている論文があるとしています。以下の問いに教えてください(20分)。
 - その論文の論題(日本語・英語)
 - その論文の400字程度の要約(日本語・英語)
 - キーワード(5つまで)(日本語・英語)
 - 著者・共著者(もし、いれば)の氏名、所属、肩書(日本語・英語)
 - 既述の6誌のうちのどの雑誌に投稿したいか、また、その理由

【実習②】11編の参考資料を提示し、それらの文献リストを作成する

- 各グループに割り振られた査読付き雑誌の投稿規程等に準拠した参考文献リストを作成する(作業時間は10分)
- グループ内で他者の作成した参考文献リストをチェックし、投稿規程等に準拠しているかどうかを確認する。準拠していない箇所数を本人に伝える。
- 作成者は、指摘にしたがって修正を行い、再度チェックしてくれた人に提出する
- まだ修正箇所が残っている場合は、その部分をマーカーでハイライトし、作成者に返却する
- このチェック後もまだ修正箇所が残っている場合は、チェックした人が正しい表記を伝える
- 参考文献リスト作成のための情報は、下記のとおりである。
 - 和文論文(単著)
 - 和文論文(共同論文)
 - 和文書籍(単著)
 - 和文書籍(共著)
 - 和文書籍(編著)
 - 英文論文(単著)
 - 英文論文(共同論文)
 - 英文書籍(和訳あり)
 - インターネット情報
 - 和文報告書
 - 新聞記事

例：『原価計算研究』の参考文献リスト

15 / 16

自動ズーム

🔍

谷 (2021b) を参照されたい。

12調査対象者全員の発言内容と、そこから導出された要件のすべて、また、経験からの学習内容の全文を本論文に記載する紙幅はない。詳細情報の入手を希望される場合には、筆者に問い合わせられたい。

【参考文献】

浅田孝幸. 2002. 「非財務測定尺度の意義：バランススコアカードについて」『国民経済雑誌』186(1)：29-50.

伊丹敬之・青木康晴. 2016. 『現場が動き出す会計：人はなぜ測定されると行動を変えるのか』日本経済新聞社.

伊丹敬之・加護野忠男. 2003. 『ゼミナール経営学入門：第三版』日本経済新聞出版.

伊藤嘉博. 2011. 「バランス・スコアカード」(浅田孝幸・伊藤嘉博編『戦略管理会計（体系現代会計学 11）』中央経済社：267-296）.

加登豊. 2020. 「管理会計が看過してきたこと：健全な管理会計実践のための指針」『経営会計レビュー』1(1)：3-15.

加登豊. 2021. 「管理会計のレゾナデートル」『メロコ管理会計研究』12(2)：3-18.

加登豊・木谷あゆみ. 2021a. 「BSC による人材育

析」白桃書房.

谷口智彦. 2009. 「若年中堅時の海外勤務、地方勤務、出向経験の比較を通じた経験の有益さの分析：経験のプロセスが与える影響」『Works Review』4(14)：1-12.

津曲直躬. 1972. 「管理会計論の外延と内包」『産業経理』32(3)：19-25.

中原淳. 2010. 『職場学習論：仕事の学びを科学する』東京大学出版会.

中原淳. 2012. 『経営学習論：人材育成を科学する』東京大学出版会.

中原淳. 2021. 『職場学習論：仕事の学びを科学する：新装版』東京大学出版会.

平野光俊・江夏幾多郎. 2018. 『人事管理：人と企業、ともに生きるために』有斐閣.

松尾睦. 2006. 『経験からの学習：プロフェッショナルへの成長プロセス』同文館出版.

松尾睦. 2011. 『職場が生きる人が育つ「経験学習」入門』ダイヤモンド社.

Becker, B. E., M. A. Huselid, and D. Ulrich. 2001. *The HR Scorecard: Linking People, Strategy, and Performance*. Boston: Harvard Business Review Press (菊田良治訳. 2002. 『HR スコアカード』日経 BP 社).

Brummet, R. L., E. G. Flamholtz, and P. C. Wil-

100

原価計算研究 2022 Vol.46 No.1

例：『管理会計学』の参考文献リスト

- Sole, J. 2014. *The Reckoning: Financial Accountability and the Rise and Fall of Nations*, New York. New York: Basic Books. 村井章子訳. 2015. 『帳簿の世界史』 文芸春秋.
- 田中雅康. 1985. 「新製品開発と原価企画」『企業会計』 37(2):243–250.
- 津曲直躬. 1972. 「管理会計論の外延と内包」『産業経理』 32(3):19–25.
- 津曲直躬. 1977. 『管理会計論—企業予算と直接原価計算—』 国元書房.
- 渡邊章好. 2013. 「管理会計における分析的手法の意図と貢献」『原価計算研究』 21(1):11–20.
- 安酸建二. 2021. 「エビデンス・ベーストな管理会計研究を目指して」『管理会計学』 29(2): 3–11.

デスク・リジェクト(即時不受理)を回避する(2)

➤ 先行研究レビューの重要性を認識する

- ☞ 投稿論文に関連した必要十分で網羅的な先行研究レビューを行う

➤ 投稿論文執筆に不可欠な先行研究は必ずある

- ☞ 主戦場である専門領域の文献レビューが不十分だと不受理となることが多い
- ☞ 重要なもの、特に欠くべからざる過去の管理会計研究が欠落していないこと
→ 即時不受理となる可能性がある

➤ 先行研究の大部分が他分野の研究である場合は注意する

- ☞ 「必要十分で網羅的に先行研究が渉猟されていない」と判断される可能性があり、即時不受理となる可能性がある（とても新規性の高い論文は受理されにくいことを認識しておくこと）

デスク・リジェクト(即時不受理)を回避する(3)

➤ 文章表現上に問題がある論文は、即時不受理となる可能性がある

☞「読んでいただく」という謙虚な姿勢が不可欠

☞文章表現力に問題がある場合

- ✓ 難解な文章

- ✓ 語彙が少ない・誤字脱字が多い・繰り返し同じような表現 etc…

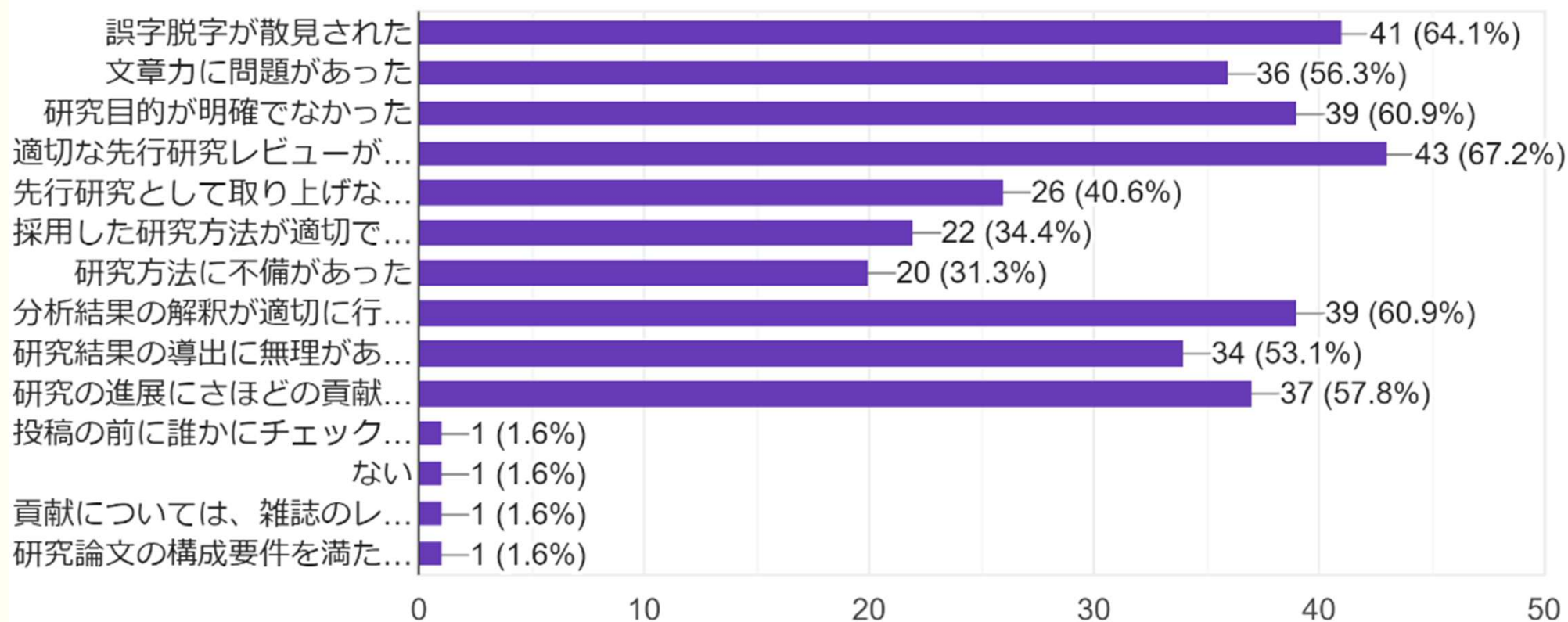
- ✓ 文章表現上の「封じ手」の多用:

「…べきである」「…と思われる」「所々検討の結果、…という結論に到達した」

➤ 研究目的に適合した研究方法が採用されていない場合、即不受理となる可能性がある

参考： 投稿論文の問題点(質問票調査の結果)

64 件の回答



デスク・リジェクト（即時不受理）について質問がありますか

受理されにくい研究があることを肝に銘じる

- 挑戦的な研究よりも、オーソドックスな研究で掲載を勝ち取るのが王道
- 受理されにくい論文(例)
 - ✓ 学際的な研究
 - ✓ 萌芽的な研究
 - ✓ 既存研究の追試研究(例: 欧米の研究を日本のデータで追試する、研究対象業種を変更する)
 - ✓ ナイーブな研究方法に基づく研究
 - ✓ 単なる事例の紹介論文
 - ✓ 規範的研究
 - ✓ 提言や推奨などを目的とする論文

投稿後の対応(査読レポートへの向き合い方): 査読レポートを読み、返答の準備をする(その1)

(研究調査アンケートより)

質問10: 投稿者の認識

「レフリーのコメントに対応しなければ
不受理になる可能性が高い」と思われますか？

→回答者の59.2%は「そうおもう」、「ややそう思う」が30.3%)

投稿後の対応(査読レポートへの向き合い方): 査読レポートを読み、返答の準備をする(その1)

1. 査読者の指摘に対する執筆者の気持ちをまず明らかにする

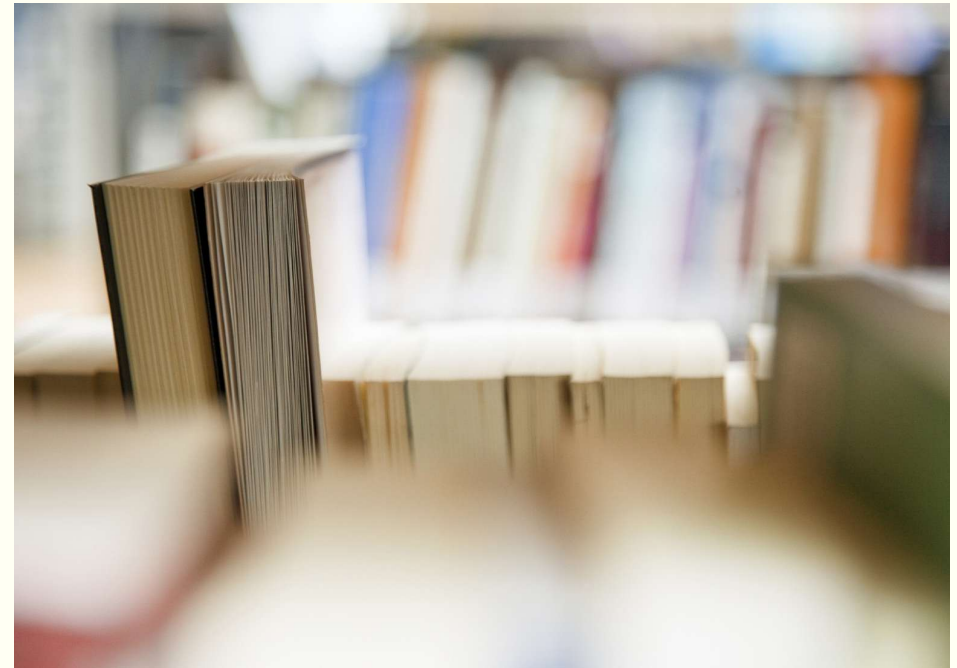
- ✓ 査読者が投稿論文価値の向上に貢献しようとしている場合
→ 「石を拾うことはあっても玉を捨てることなかれ」
→ 「玉」の原石か
- ✓ 査読者が投稿論文に対する批判的コメントをすることを査読と思っている場合
→ 対応は極めて難しい

2. 指摘に対する対応について、自身の意見を取りまとめる

- ✓ 全面的に指摘が適切で妥当と判断した場合
- ✓ 一部について納得がいくが、全面的には合意できない場合
- ✓ 全面的に合意できない場合

投稿先雑誌の特徴と優先順位の決定

- 『原価計算研究』
- 『管理会計学』
- 『メルコ管理会計研究』
- 『会計プロGRESS』
- 『経営会計レビュー』



→ 今回のセミナーでは、日本原価計算研究学会の『原価計算研究』と『経営会計レビュー』を取り上げて説明する(他誌に関しては、問い合わせてください)

投稿先雑誌の特徴と優先順位の決定

- 投稿優先順位の決定にあたって考慮すること
 - 過去の掲載論文(過去5年程度)を分析し、どの程度、管理会計・原価計算から距離が離れている研究論文でも掲載可能性があるかどうかを判断する。
 - どのような研究方法を採用する研究が多いかを分析する。
 - 近年、雑誌に掲載される論文数が減少しており、『管理会計学』や『メルコ管理会計研究』では、採択が決まっても雑誌として発行できるだけの論文数がそろわないと出版されない危険性がある。そのため、研究実績の蓄積に遅れが生じるリスクがある。



投稿先雑誌の特徴と優先順位の決定: 『原価計算研究』

- 管理会計関連で投稿論文数が最も多い学術雑誌の1つ
- 投稿条件:直近の全国大会(8月下旬ー9月上旬), 全国大会直前の部会、その他当学会が主催ないし共催する研究会で執筆・発表
- 学会報告用フルペーパー提出期限:6月末
- 学会報告決定:7月下旬
- 投稿締切:毎年9月末、掲載決定:翌年の4月前後

➤ 実績:

- 学会報告数(2019年全国大会):48編、投稿論文数:不明
- 採択論文数:24編、採択率 約50%

➤ 特徴:

- ☞ 査読結果が投稿から6か月前後で明らかになる
- ☞ 不採択の場合、迅速に次のアクションをとることが可能

投稿先雑誌の特徴と優先順位の決定: 『経営会計レビュー』

9/27 加登先生と協議の結果
このままで口頭で補足していく(松尾先生のコメント)

■ 日本原価計算研究学会のオンライン・ジャーナル(査読付き)

■ 『原価計算研究』とのすみわけが行われている

■ 投稿条件: 下記「特徴」参照

■ 投稿時期: 随時

➤ 実績

- 学会報告数(全国大会): ○○編、投稿論文数: ●●編
- 採択論文数: ○○編、採択率 約○○%

➤ 特徴: 投稿条件: 下記の特徴を有する管理会計論文(日本語・英語)

- ☞ 管理会計、原価計算の先進的・特徴的な実務を紹介したもの
- ☞ 管理会計・原価計算技法に関する他産業への導入事例を紹介したもの
(理論的な新規性はなくとも実務への導入事例に有意義なもの)
- ☞ 実務への啓発的な示唆に富んだ議論
- ☞ 社会的に注目を集めた課題のうち、学会としての情報発信の必要性・緊急度が高いもの

今後の追記?

- ✓ 調査結果から明らかになった『経営会計レビュー』の特徴
- ✓ 雑誌の魅力度
- ✓ 過去5年間の投稿実績と採択実績と査読に対する納得度
- ✓ 査読者の適任度(主観評価)

- ✓ 『原価計算研究』での掲載は困難だが、一定の社会的価値のある研究を積極的に掲載することを目的
- ✓ 投稿条件に示したような特徴を有する論文(特に、社会人論文あるいは社会人との共同論文)に適している

査読に関する諸規定の内容分析：日本原価計算研究学会

- 研究倫理綱領(2021年8月31日制定)
- 研究倫理チェックリスト(2022/08/02更新)
PDF版 Word版
- 『原価計算研究』編集委員会運営細則(2022年9月7日改正)
- 『原価計算研究』レフリー制度運用基準(2021年8月9日改正)
- 学会誌投稿規定(2022年9月6日改正)
- 『原価計算研究』執筆要項(2022年9月6日改正)
- 『経営会計レビュー』編集委員会運営細則(2022年9月7日改正)
- 『経営会計レビュー』投稿規程(2022年2月28日改正)
- 『経営会計レビュー』執筆要項(2022年2月28日改正)
- 個人情報取扱規程(2022年9月6日制定)

投稿先雑誌の特徴と優先順位の決定： 『メルコ管理会計』

- 投稿論文の価値を最大限に引き出すための丁寧な査読（一方で、査読期間が長期化する可能性あり）
- 投稿条件：牧誠財財団の助成研究は、投稿が義務付けられている。自由な投稿も受け入れている。

■ 投稿締切： 随時受付

➤ 実績

- ・ 学会報告数(全国大会)：〇〇編、投稿論文数：●●編
- ・ 採択論文数：〇〇編、採択率 約〇〇%

➤ 特徴：

- ☞ 研究助成金の獲得と査読雑誌への論文投稿が一体化。
- ☞ しかし、投稿が行われていないケースも少なくない（深刻な問題と財団は認識している）
- ☞ また、投稿しても、不受理となる場合がある

査読に関する諸規定の内容分析: 牧誠財団

- 投稿論文執筆要領
- 査読制度運用規程（2022年4月改訂）
- 院生論文査読制度運用規程（2022年4月改訂）

査読制度の対象外の雑誌

- 『会計』
- 『企業会計』
- 『産業経理』
- 紀要

投稿後の対応(査読レポートへの向き合い方): 査読レポートを読み、返答の準備をする(その2)

1. 査読レポートに対する返答を行う上での留意点

- ✓ コメントに対する是々非々の対応をする
- ✓ すべての指摘事項に対して、何らかの回答を行う
- ✓ 感謝の気持ちを忘れない
- ✓ 指摘を受けて、具体的にどの箇所をどう修正・加筆・削除を行ったかを明確に記述する
- ✓ 不適切と思われる査読コメントへの対応方法(質問票調査結果を踏まえて)

2. 査読結果がスプリットした場合の対処法

- 👉 63.2%はスプリットの経験あり☆
- 👉 スプリットしても受理される可能性は決して低くない
 - ✓ 査読対応をすると受諾の可能性があると思われる場合
 - ✓ 査読対応をしても不受理となる可能性が高い場合

実習③: 査読レポートに対する回答文を作成する

- 当初投稿原稿と査読コメント(要約的なもの)を教材とし、回答文作成の方針メモを作成する
 - メモ作成 30分
 - グループ内で作成されたメモについて、改善点に関する討議を行う 30分

実ケースにみる査読レポートへの対応： 査読結果がB(修正のうえ再提出)およびC(不受理)の事例

➤学会報告

- 加登豊・木谷あゆみ「管理会計と組織行動の架橋研究:「異動」による人材の学習・成長」日本原価計算研究学会自由論題報告(同志社大学)(2021年09月01日)自由論題報告
→修正後受理
- 加登豊・平井毅「インターラクティブ・コントロール研究の問題点とその克服」日本原価計算研究学会自由論題報告(成蹊大学吉祥寺キャンパス)(2019年09月03日)自由論題報告
→不受理

➤掲載論文

- 加登豊・木谷あゆみ(2022). 「「異動」による人材育成とBSC:管理会計と組織学習の架橋研究を目指して」『原価計算研究』46(1):88-101.

実ケースにみる査読レポートへの対応： 査読結果がBの査読レポートに対する対応

- 査読レポートに対する回答（実際の回答は、スライドのみでご覧いただきます）
 - 査読者A：9ページ
 - 査読者B：3ページ

実ケースにみる査読レポートへの対応： 査読結果がスプリットした事例

➤学会報告

- 佐々慶子・加登豊「医療サービスの原価企画：「診療プロトコル」の逆機能とその克服」日本原価計算研究学会自由論題報告(成蹊大学吉祥寺キャンパス)(2019年09月03日)自由論題報告

➤掲載論文

- 加登豊・佐々慶子(2020).「診療プロトコルの逆機能研究から得られる知見：製造業の原価企画研究を踏まえて」『原価計算研究』44(2):124-136.

実ケースにみる査読レポートへの対応： 査読結果がスプリットした事例（続き）

➤査読プロセス

1. 9月末日 原稿投稿締切

👉1回目(査読者1) 評価B (査読者2) 評価B

👉査読レポートへの対応(次の2枚のスライドを参照)

2. 12月25日 査読レポートに基づく修正原稿の提出

👉2回目(査読者1) 評価A (査読者2) 評価C

👉規定により第3査読者を編集委員が選定、結果 B

スプリット

3. 3月30日 査読者3の査読レポートへの対応した修正原稿の提出

👉3回目(査読者) 評価 A → 規定により掲載決定

実ケースにみる査読レポートへの対応： 査読結果がスプリットした事例（続き）

- 査読レポートに対する回答（実際の回答は、スライドのみでご覧いただきます）
 - 査読者1:8ページ

不受理が決定した後の対応：(☆質問票調査結果を踏まえて)

➤ Publish

- 次の優先順位の査読付き学術雑誌への投稿を行う
- 学内誌等(査読付き)への投稿を行う

➤ Perish (研究活動の成果はない)

- 学内誌等(査読なし)への投稿を行う
- WPやDPとして記録を残す
- 公開を断念する

優れた投稿者・査読者となるために

- 査読依頼を受けた経験を活かす(84.2%は経験あり)
 - 常に受ける 68.8%
- 査読の目的(研究のさらなる向上)を忘れない
- 査読は投稿者の義務

査読レポートへの向き合い方について質問がありますか

補論:二刀流(両利き)の研究者を目指す

■経営学研究のレゾンデートル(存在意義)

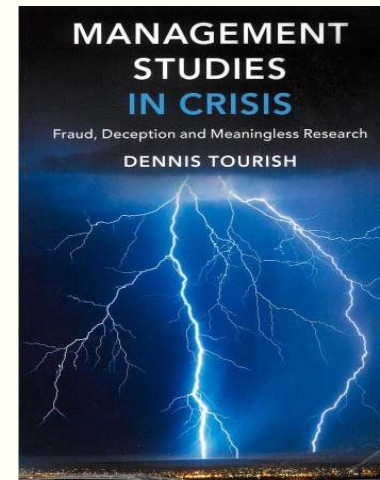
➤ 研究の進展に貢献する研究者

Academic Researcher

- 世界をリードする研究者を目指す
- 査読付き学術雑誌への貢献
- Academic researchの歪みをたどす

➤ 社会に貢献する研究者

- 日本社会の現状を客観的に理解する。救世のための研究に従事する。
- MBA学生との共同研究の推進
(2019年以降これまでのMBA修了生との共同学会報告13件(国内10件、国外3件、査読付き論文8編、WP3編)
<https://researchmap.jp/read0014935>)
- Academic and functional chimneyからの脱却(忘れよう「井の中の蛙、天空を知る」)
- コンサルティング
- 社外取締役



トウーリツシュ氏の改善提案へのコメント(1): 研究発表とその媒体

➤「論文刊行ゲーム」をやめる

- 両利きの研究者を目指す
- 査読付き論文 + α
(α = 書籍、教育研究、研究方法論研究、エッセイ、社外取締役、コンサルタント、研修講師等…)
- 論文の「中身」で勝負する

➤発表媒体

- 論文 + 書籍などの執筆・刊行を推奨
- マスコミ露出を通じて意見を述べる

➤ロールモデル(査読論文に拘束されない生き方):

- 伊丹敬之、加護野忠男、藤本隆宏、延岡健太郎、楠木建、入山章栄、長内厚……
- 書籍等の「中身」で勝負する

➤理論的な貢献以外の貢献も評価する

- 教育、社会貢献、学内行政

トウーリツシュ氏の改善提案へのコメント(2): 研究者としての生き方

➤ トップジャーナルでの論文掲載や一流大学での栄達(出世)以外の目標

☞ 生きる目的を考える

➤ 多くの人々にとっての真の意味での重要な現実的問題に取り組む

☞ ただし、経営実践者の「確証バイアス」という高い壁がある。

☞ それを乗り越えることは至難の業。「憂国の士」は社会に受け入れられにくい

➤ 一般の人々にも理解しやすい理論を用い、また平明な言葉で書く

☞ 読める文章を書く。

☞ 読者を魅了する文章を書く。

☞ 「楽屋落ち論文」で自己満足しない。

トウーリツシュ氏の改善提案へのコメント(3): 研究者・大学に対する評価

➤ 大学ランキング、ジャーナル・ランキングに囚われない

- ☞ いくら頑張っても、ランキングは外国製。トップ10には入れない
- ☞ 日本はすでにガラパゴス。この国で特異種(将来のグローバル・スタンダードの種)を生み出すことに専念するのも悪くない。

➤ 研究助成金の獲得状況を過度に重視しない

- ☞ 科研費以外にも多くの研究助成金がある
- ☞ 各種在外研究支援制度、コンサルティング収入、奨学寄附金や寄付講座の獲得等・

➤ 失敗のリスクもある大胆な研究計画の申請を評価して助成する

- ☞ 優れた研究を支援してくれる財団を設立してもらう(例: 牧誠財団)。

このセミナー受講後のみなさんは

- 間違いなく、投稿論文の採択率が向上する
- 知らぬ間に、査読者としての能力が向上する
- 査読付き学術雑誌の質向上に貢献できるケイパビリティが強化される



ソリューションレポートを学術論文化する

同志社大学大学院ビジネス研究科 教授 加登豊

参考文献(抜粋)

石井裕剛.2017.「論文誌編集委員会」『ヒューマンインタフェース学会論文誌』19(2):72.

伊藤嘉博, 尾畑裕, 片岡洋人, 加登豊, 篠田朝也, 丸太起大, 吉田栄介, 澤邊紀生.2021.「座談会:「査読制度の意義とあるべき姿:先達の経験から考える」」『メルコ管理会計研究』13(1): 81-94.

井野秀一.2015.「論文誌編集委員会」『ヒューマンインタフェース学会論文誌』17(3):183.

加藤博一. 2011.「実践講座:論文誌と査読・編集プロセス (ヒューマンインタフェース学会論文誌への投稿の進め(第1回))」『ヒューマンインタフェース学会論文誌』13(2):41-46.

加藤博一.2005.「投稿したくなる論文誌を目指して」『ヒューマンインタフェース学会論文誌』7(2):78.

河合隆治. 2022.「日本の管理会計研究のインパクト」『原価計算研究』46 ((1)):1-11.

木村朝子.2018.「論文誌編集委員会」『ヒューマンインタフェース学会論文誌』20(4):219.

黒川隆夫.2002.「論文誌の質的量的向上を願って」『ヒューマンインタフェース学会論文誌』4(1):2.

仲谷善雄.2006.「論文誌の改革を目指して」『ヒューマンインタフェース学会論文誌』8(4):217.

日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会.2015.「科学の健全な発展のために:誠実な研究者の心得」.

安村通晃.2003.「ユーザー指向の論文誌を目指して」『ヒューマンインタフェース学会論文誌』5(1):2.